

よ読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

2018年の西日本豪雨で大きな被害を受けた倉敷市真備町地区を拠点に活動する住民団体が、被災者から川柳を募り句集にまとめました。記事を読み質問に答えましょう。

Q1 川柳には、支援への感謝や前を向く気持ちのほか、5年が過ぎたなお残る後悔もつづられています。災害に遭った人が川柳を作ることで、どんな気持ちになると思えますか。想像して書いてみよう。

ていがくねん
低学年も
チャレンジ!

Q2 句集には73の川柳が収められています。記事の中で、ボランティアらへの感謝を表現した作品はどれですか。第3、第4段落から抜き出してみましょう。

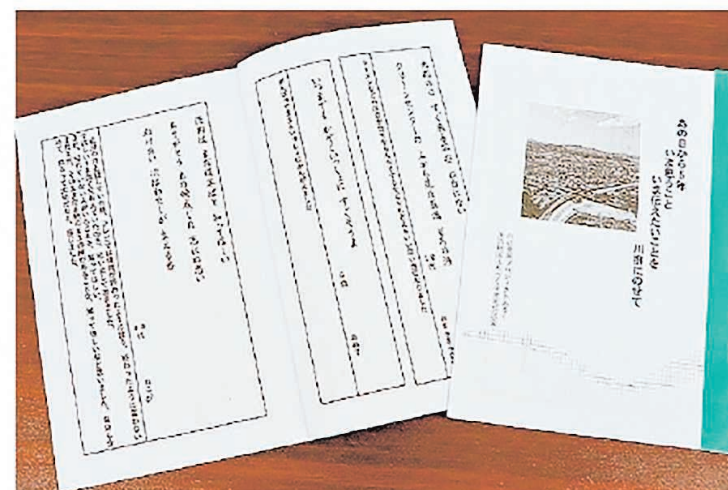
と、川辺地区まちづくり推進協議会の協力を得て昨夏募った。川辺地区在住者と元住民の約30人から集まり、6歳から80代までの全員分を収録した句集（A5判、29頁）が昨年11月に完成した。〈わすれないやさしい心ありがとうと〉といったボランティアらへの感謝や、〈水害の教訓いかし五年目に笑顔いっぱい真備の郷〉と前向きに歩む決意を詠んだ。一方で、〈大雨の日すぐ来る不安ねむれない〉〈雨が降る大丈夫かと雨に聞

わすれないやさしい心
ありがとう
雨が降る大丈夫かと
雨に聞く

2018年の西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町川辺地区を拠点に活動する住民団体「川辺復興プロジェクトあるく」が、被災者から川柳を募り、句集にまとめた。73句を収め、支援への感謝や復興に向けて前を向く気持ちをつづる一方、5年が過ぎてなお残る後悔やトラウマ（心的外傷）を赤裸々に表現している。川柳は、被災の経験を語り継ぐとともに今の心境を吐露する機会にしてもらおう

感謝、トラウマ 川柳に 西日本豪雨5年「あるく」が句集

真備住民ら思いつづる
く〉と拭えない恐怖、〈声かけず避難したこと後悔する〉と変わるこのない思いも多く寄せられた。〈復興はまだ道半ばと知ってほしい〉と災害がまだ終わっていないと訴える作品もある。句集は応募者や関係者に配布。作品は川辺地区の防災イベントなどで公開していくという。あるくの榎原聡美代表は「まちの復興と心の復興は比例しない。皆さんの思いや教訓を伝え続けることが大切で、忘れてはいけないこと、自然が教えてくれたことを受け止めて活動に生かしていきたい」と話している。（信定佑紀）



西日本豪雨の被災者から募った川柳を収録した句集

Q3 最後の段落には、企画した住民団体代表の話が載っています。その中で「比例しない」と訴えていることは何ですか。

過去の問題は
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。